



座光寺地区の歴史資料調査

進めています。地域史料活用への取り組み

歴史研究所では、小学校区をおよその基準に飯田市内を区分けし、それを「単位地域」として史料の所在把握、整理、保存を進めています。文献史料のほか、歴史的建造物、地域に暮らしてこられた方への聞き取りなどを組み合わせた調査を行っています。

現在座光寺地区で進めている、旧村役場文書などの行政関係文書、地域の個人が所有する史料などを複合的に捉えた、保存と利用のための取り組みをご紹介します。



史料整理の経過

座光寺の麻績史料館には、旧座光寺村（1956年に飯田市に合併）の役場文書のほか、近世史料を含む多くの地域史料が保管されています。歴史研究所では、座光寺史学会ほか地区の皆さんとともにこれらの史料の整理・調査を進めてきました。

旧座光寺村役場文書については、目録作成、封筒詰め、箱詰め作業をほぼ終えて、目録の最終確認作業を始めています。

今後は同館に保管されている軍人分会史料、消防組史料などの整理に取り掛かる予定です。

また、近世史料については座光寺史学会の方たちを中心に整理を進めており、あわせて複写の作成、分類など、より多くの人が身近に史料を利用できるよう、環境づくりをしています。

史料保存用の棚を設置

このほど座光寺地区自治協議会により、麻績史料館内に史料保存用の棚が設置されました。中性紙封筒に詰め、中性紙箱に収めた史料を並べます。棚の設置により、整理した史料をより保存に適した環境で保管することができるようになります。また、史料を閲覧する際にもとても便利になりました。



建造物調査

現在、座光寺地区では歴史的建造物の網羅的な調査を実施しています。この地区には本棟造りが7棟、養蚕民家が約20件残っていますが、1次調査として下見と聞き取りを行い、そのうちで特色ある建物を実測調査しています。来春には中間報告を行いたいと思っています。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。



座光寺地区
史料調査へ
ご参加下さい

座光寺地区の史料調査に参加していただける方を募集しています。座光寺在住でなくても、どなたでもご参加いただけます。古文書が読めなくても差し支えありません。歴史研究所へお問い合わせください。

■場 所 座光寺麻績史料館
(座光寺支所庁舎そば、麻績会館2階)
■開催日: 毎月第2、第4木曜日
午前9時～11時半
※ご都合のつく時だけかまいません

4 (第29講座) 12月16日(土)・17日(日)

イタリア都市の歴史と生活文化

講師:陣内秀信さん(法政大学教授)

世界で最も長い持続した都市の歴史を誇るイタリアを対象に、特徴あるいくつかの地方を訪ねながら、その生活空間がいかに成立しているかを解き明かします。



5 (第30講座) 1月20日(土)・21日(日)

近世庶民の日記を読む

講師:大口勇次郎さん(お茶の水女子大学名誉教授)

江戸時代の庶民の生活を知る資料として「日記」があります。江戸近郊のある村名主の家で書き継がれた「日記」を読んで、そこに生きた子供たちの成長の姿を読み取りたいと思います。

- 時間 1日目(土) 13:30~17:00
2日目(日) 10:00~14:30
※90分の講義を4回、2日間にわたって行います。
- 会場 飯田市歴史研究所(飯田市役所上郷支所庁舎) 3F 会議室
- 募集人員 各講座30人
- 受講料 資料代として500円(2日間分)
※2日目の昼休みには、講師を囲んでの昼食交流会を行います。(会費1,000円)
- 申込方法 電話、ファクシミリまたはEメールで、歴史研究所へお申し込みください。
※ファクシミリまたはEメールでお申し込みの場合は、住所・氏名・電話番号を明記して下さい。

職場体験学習の受け入れ

11月16日(木)、松川高校の職場体験学習として、1年生の4人が歴史研究所を訪れました。

歴史研究所の概要、史料調査の手順に関する説明の後、実際に作業を行いました。

マイクロ撮影

午前はマイクロカメラを使っての史料撮影に取り組みました。撮影したのは旧三穂村役場『満洲開拓一件』(昭和18年)という文書です。戦時期に飯田・下伊那から多く送



出された満洲移民の状況について、史料を1枚ずつめくり、書かれている内容にも触れながら、シャッターを押していました。あわせて、マイクロフィルムの紙焼(プリント)も行いました。

史料目録作成

午後は史料目録作成に取り組みました。上郷地区の豪農が所有していた書籍史料の、表題や発行年月などの情報を、1点ずつ記録していきます。旧字体など見慣れない文字、江戸時代の元号などに苦労しながらも、熱心に作業をしてくれました。



1日の職場体験学習を通じて

充実した職場体験を過ごせたでしょうか。こういった作業の積み重ねによって、初めて、地域の歴史を明らかにすることができるのです。大変な仕事ではありますが、やりがいもあります。そういったことを少しでも感じてもらえたなら嬉しいです。



参加した生徒の感想

「機械の使い方が難しかった」
「時間、手間がとくさんかかると思った」

「写真を撮るときに、飯田から満洲に行った人が多いことを教えてもらって、この辺では戦争にそんなに関わっていないと思っていたけど、関わっている人が多いことを知ることができた」

谷と台地の町を訪れて

初めて飯田を訪れたのは3年前のことですが、山好きの私はこのあたりの地図も以前からよく見ていました。そして飯田の奇妙な市境線を不思議に思っていました。市域のなかに別の自治体がぽっかりと浮かんでいたからです。鼎地区のことですが、現地に来てみると容易に納得できました。美術博物館あたりから見ると、そこが谷沿いの小宇宙のような平地であることが見て取れました。

逆に飯田を訪れて不思議に思ったのは、旧城下町が本丸に向かってどんどん下っていくような形で作られていることです。普通は城に向かって斜度を上げて

いくのではないかと思ったのですが、これもほどなく、本丸が谷と谷にはさまれた舌状台地の先端の断崖上にあっていることを知りました。防御性という点からすれば、きわめて合理的なロケーションなのでしょう。

市街地を歩いていても起伏に富み、まさに飯田は谷と台地を利用して作られた町であることがわかりました。仕事柄、史料収集で日本中を歩き回っていますが、都市の立地としてこんなおもしろいところは全国でも少ないだろうと思います。飯田を訪れた機会はまだまだ多くはありませんが、この谷と台地のおりなす変化に富んだ土地で、どのような人々の営みが展開していたのか、少しずつ勉強していこうと思います。

月例研究会

月に1度、研究所員が研究内容を報告し、参加者が自由な意見交換をする研究会です。事前の申し込みは不要ですので、気軽にご参加下さい。

12月の月例研究会

1920年代の飯田・下伊那 —世界経済のなかで—

1920年代の飯田・下伊那の経済・社会状況は、その後の飯田・下伊那のあり方にも大きく影響を与えました。現在でもその痕跡は残っています。1920年代の飯田・下伊那を考えることは、現在とこれからの飯田・下伊那を考えることにもなるはずです。1920年代の飯田・下伊那は繭、生糸を生産することにより、世界経済、特にアメリカ経済と密接なつながりを持つようになります。今回は、なぜアメリカにおいて生糸の需要が高まったか、それがどのような影響を飯田・下伊那に与えたのかを考えてみたいと思います。

- 報告者 鬼塚 博 研究員
- 日時 12月9日(土) 午後2時～4時
- 場所 歴史研究所 研修室

1月の月例研究会

戦後改革期農村工業の構想と実際 —北澤家文書を出発点として—

戦後ほどなく、特殊な経済条件、言論条件を背景として、どのような形で農村に工業を導入するかが大きな課題となりました。その導入形態は農業・農民・農村保護の観点から、農協経営が理想とされました。なかでも、長野県農協連合会が経営する農村工場群は規模、質ともに全国の模範でした。北澤家文書を出発点として、長野県農協連直営工場のあゆみ(成長・衰退・再生)を検討し、戦後日本の「農工問題」を考えます。

- 報告者 坂口正彦(國學院大學大学院博士課程)
- 日時 1月27日(土) 午後2時～4時
- 場所 歴史研究所 研修室

歴研ゼミだより 10月・11月の内容

参加者のみなさんと一緒に歴史の研究を行い、研究方法を学んでいただくための講座です。

近世史 ゼミ	10月3日	飯田町の成立過程と地子について	■テーマ	近世下伊那の民衆生活史
	10月17日	万延元年九月 御払米切手定	■開催日	隔週火曜日
	10月31日	上飯田村の「村方」と「三ヶ所」	■時間	午後7時～8時40分
	11月14日	二人の庄屋が支配する村	■担当	多和田雅保(研究員)
	11月28日	上飯田村における町場の構造		
近現代史 ゼミ	10月12日	「南信新聞」大正13年の記事にみる飯田町レポート	■テーマ	地域社会史入門～飯田町の記憶を探る
	10月26日	同上	■開催日	隔週木曜日
	11月9日	同上	■時間	午後7時～8時40分
	11月30日	「聞き書き 飯田町の生活」編集会議	■担当	田中雅孝(調査研究員)
現代史 ゼミ (英語文献講読)	10月4日	映画『GO』National identityの越え方	■テーマ	地域社会とグローバリゼーション
	10月18日	新期開講 —"Livin' on a prayer"と中心市街地の空洞化	■開催日	隔週水曜日
	11月2日	ウエストフェアリア体制	■時間	午後7時～8時30分
	11月22日	満州移民と飯田下伊那	■担当	鬼塚 博(研究員)

※各ゼミとも歴史研究所研修室で行っています。お気軽にご参加ください。

歴史研究所の発行物紹介



『古島敏雄著作集』

(A5判上製本、10巻セット)
 (定価:50,000円(税込))

昨年歴史研究所は、長く絶版となっていた『古島敏雄著作集』を100セット限定で復刊しました。

飯田市出身の農業史学者、古島敏雄(1912-95)は、戦前戦後にかけて多くの業績を遺し、日本歴史学の礎を築きました。本著作集には、この古島史学の原点ともいえるべき、伊那地方を題材とした農村史研究の成果が豊富に収められています。古島が遺した業績は今なお、私たちが地域を理解し、考える上で、多くの示唆を与えてくれるはずです。ぜひこの機会にご一読下さい。

- 第1巻 「徭役労働制の崩壊過程」
- 第2巻 「日本封建農業史 家族形態と農業の発達」
- 第3巻 「近世日本農業の構造」
- 第4巻 「信州中馬の研究」
- 第5巻 「日本農学史」
- 第6巻 「日本農業技術史」
- 第7巻 「共同体の研究」
- 第8巻 「地主制史研究」
- 第9巻 「近代農学史研究」
- 第10巻 「地方史研究法」
- 付録 『古島史学の現在』

販売所・問い合わせ 歴史研究所 (電話 0265-53-4670)

歴研日誌

10月

- 2日～5日 歴史的建造物調査(座光寺)
- 3日 近世史ゼミ
- 4日 現代史ゼミ
- 10日～11日 旧南信濃村役場文書調査
- 12日 近現代史ゼミ
- 17日 近世史ゼミ
- 18日 現代史ゼミ
- 19日～21日 建築調査(石川・福井)
- 20日 田中伍市関係資料寄贈
- 21日 箕瀬岡田家史料現状記録調査
- 24日 歴史的建造物調査(鼎)
- 24日～25日 旧南信濃村役場文書調査
- 26日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 27日 追手町小学校史料調査
長野県史料協文献史料保存活用講習会に参加
(於:県立歴史館)
- 28日 松川町部奈家史料所在調査
- 31日 近世史ゼミ

11月

- 1日 現代史ゼミ
- 2日 追手町小学校史料調査
歴史的建造物調査(駄科)
- 3日～4日 Association for Asian Studies New England Meetingに参加 "The Political and Economic Preconditions of Japanese Emigration to "Manchuria": A Case of Shimoina Country, Nagano prefecture during the 1920s-30s"
(於: University of Massachusetts-Dartmouth)
- 9日 座光寺史料調査
近現代史ゼミ
- 14日 近世史ゼミ
- 15日 追手町小学校史料調査
- 16日 松川高校職場体験学習受け入れ
歴史的建造物調査(座光寺)
- 22日 座光寺史料調査
歴史的建造物調査(座光寺)
現代史ゼミ
- 24日 追手町小学校史料調査
- 25日・26日 世界史キャラバン
「満州移民送出の諸前提」(於:南木曾町)
- 28日 近世史ゼミ
- 30日 近現代史ゼミ

12月・1月の催事スケジュール

12月	2006 2007	1月
金	1	月
土	2	火
日	3	水
月	4	木
火	5	金
水	6	土
木	7	日
金	8	月
土	9	火 近世史ゼミ
日	10	水 現代史ゼミ
月	11	木 近現代史ゼミ
火	12	金
水	13	土 現代史ゼミ
木	14	日 近現代史ゼミ
金	15	月
土	16	火 アカデミア
日	17	水 アカデミア
月	18	木
火	19	金
水	20	土 アカデミア
木	21	日 アカデミア
金	22	月
土	23	火 近世史ゼミ
日	24	水 現代史ゼミ
月	25	木 近現代史ゼミ
火	26	金
水	27	土 月例研究会
木	28	日
金	29	月
土	30	火
日	31	水

開所日 開所時間 午前9時～午後5時
 休所日 休所日 日曜日、月曜日、祝日、
 12月29日～1月3日